Ⅱ　障害者支援施設　久喜けいわ

久喜けいわは、令和3年度に引き続き、コロナの感染状況を注視しながら事業を進める1年となりました。感染対策として制限が加わる中、事業計画に基づきながら次の事業を行ないました。

1　実施事業

（１）定員と利用率　　令和5年3月31日現在

事　業　名	定　員	現　員	平均利用率
生活介護	67名	69名	97.5%
施設入所支援	54名	54名	99.3%
就労移行支援	6名	5名	97.2%
就労継続支援	32名	37名	101.5%
短期入所支援	6名		102.3%

（２）利用者年齢構成　　※（　）は施設入所　就労移行は10代1名、20代4名　平均21.8歳

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均年齢
生活介護	男性	2(1)	5(1)	15(14)	17(16)	0	1(0)	0	47.7歳(49.0歳)
	女性	3(1)	6(2)	2(2)	11(10)	1(1)	4(4)	2(2)	51.5歳(56.8歳)
計		5(2)	11(3)	17(16)	28(26)	1(1)	5(4)	2(2)	69人(54人)
就労継続B型	男性	8	6	2	3	1	2	0	38.7歳
	女性	2	4	2	1	2	4	0	50.1歳
計		10	10	4	4	3	6	0	37名

（３）障害支援区分

		区分３	区分４	区分５	区分６	計
生活介護	男性	1(0)	2(0)	12(8)	23(22)	38人(30人)
	女性	1(0)	2(0)	8(6)	20(18)	31人(24人)
計		2(0)	4(0)	20(14)	43(40)	69人(54人)

＜生活支援課＞

2　重点実施事項

（１）「人生を楽しもう！」

以下の項目を柱として取り組みました（詳細は、「３．具体的取組み」に記載）

・仕事を楽しむ　・活動を楽しむ　・好きなことを楽しむ
・人とのつながりを楽しむ　・学びを楽しむ　・健康に暮らす

（２）支援のチーム力強化

・4つのプロジェクトを立ち上げ、職員が自主的に行動できる環境を作りました。各プロジェクトでリーダーを決め、年間計画を作成して取り組みました。

①職員の自主的な虐待防止活動を推進する「プロジェクトK」
②サービス向上、働きやすさ向上を目指す「業務改善プロジェクト」
③利用者の健康増進、危険防止を推進する「元気で暮らそうプロジェクト」
④現状の課題をまとめ、施設整備に生かす「施設整備プロジェクト」

・各棟で年間目標を立て、棟内に掲示して取り組みました。棟ごとの課題点を話し合ったり、目標達成に向けて団結することができ、チームとしてよい効果が得られました。
・日中活動班を再編成しましたが、コロナの感染により活動を中断することが度々あり、計画どおりの実行はできませんでした。

（３）人権擁護の意識向上

・会議や朝会、研修等で「さん付けでの呼びかけ」を伝え、徹底しました。職員同士で注意し合うことも増え、意識向上につながっています。
・毎月、人権擁護に関する標語を決め、掲示して取り組みました。月末には取り組み状況をみんなで確認し、職員同士で良い支援を行った人を挙げて発表しました。利用者の声をしっかり聞き、常に肯定的な発言を心がけている職員がいつも選ばれました。
・身体拘束については、法人研修として行った動画視聴研修を職員全員が受けたほか、個別支援検討会議の中で、個々の必要性について議論し合うことで知識を深めました。

３　具体的取組み

（１）利用者支援

ア　活動を楽しむ

(ｱ)全体をとおして、コロナの状況を見ながらの活動実施となりました。運動部門では、近隣への散歩や大型公園でのウォーキングなどを積極的に行ったり、機能訓練棟での運動時間を日々の日課に取り入れるなど、体を動かす機会を増やして取り組みました。文化部門ではさまざまな具材を利用し、テーマを決めた作品づくりを行いました。作品は棟内で展示したり、埼玉県の作品展などにも出展したほか、1月には法人内事業所合同での「けいわのさくひんてん」を3日間開催し、利用者作品の発表の場を作りました。

イ　好きなことを楽しむ

(ｱ)コロナ禍が続いていたため、利用者の希望に応じた選択の機会は限られた範囲内のものとなりました。食事については、テイクアウトで好きなものを頼んだり、キッチンカーを呼んで外食気分を味わったりしました。

(ｲ)クラブ活動として、マラソン、ハイキング、いきいき、シネマ、音楽の5つを作り、好きなクラブに参加できるようにしましたが、各クラブとも、コロナの状況を見ながらの活動内容となりました。

ウ　健康に暮らす

(ｱ)理学療法士の訪問指導を月に2回実施しました。個別に訓練が必要な利用者に対しては、リハビリプログラムを作成して実施しています。

(ｲ)歯科通院が出来ない利用者に対して、月1回、訪問歯科を実施しました。口を開けるのが苦手だった利用者も、診察を重ねたことでしっかりと治療ができるようになってきています。

(ｳ)嚥下機能に課題のある利用者が増えているので、年に3回、言語療法士の訪

門指導でアドバイスを受け、食事介助をしながら安全な食事の仕方を実践しています。

(ｴ)「元気で暮らそうプロジェクト」で、健康増進・危険防止のための具体案を話し合い、年間計画を作成して全体で取り組みました。積極的に体を動かすことへの意識向上にもつながりました。

(ｵ)月に1回、市内の美容院に訪問美容にきてもらいました。店内ではカットが難しい利用者でも、慣れた場所では安心して行うことができています。

（２）働きやすい職場づくり

ア　仕事を楽しむ

(ｱ)「業務改善プロジェクト」のメンバーが中心となって職員アンケートを行い、勤務体制や設備面での改善に取り組みました。勤務体制では、土日の日中帯の職員数を手厚くし、余暇支援の充実につなげました。設備面では、男女棟浴室の洗面台を撤去し、脱衣場を広くしたことで利用者の更衣や介助を安全に行いやすくしました。職員の意見を反映したことで、支援へのモチベーション向上にもつながりました。

(ｲ)「プロジェクトK」の活動として「ほほえみ便り」を年に3回発行し、職員の声と虐待に関しての豆知識などを掲載しました。棟内に掲示し、利用者も職員も見られるようにしています。

(ｳ)コロナの感染やワクチン接種など、職員勤務を調整しなければならない事が多く、全体会議を定例で開催することはできませんでしたが、必要に応じて随時意見交換を交わす機会を作って対応しました。

（３）人材育成

ア　学びを楽しむ

(ｱ)強度行動障害についての外部研修は計画的に参加しましたが、その内容を全体化するための内部研修は実施できませんでした。

(ｲ)理学療法士に講師を依頼し、介護技術を高める研修として「身体のしくみについて」を実施しました。

＜その他、主な参加研修＞

外部研修	感染症予防基礎研修、中堅職員研修、接遇講習会、 自閉症セミナー、強度行動障害基礎研修、介護技術研修など
内部研修	アンガーマネジメント研修、虐待防止研修、AED研修、 事例検討会(GSV)、身体拘束防止・虐待防止動画研修など

（４）リスク管理

ア　コロナ感染症対策

(ｱ)施設内での感染症対策は昨年度に引き続き継続して行っていましたが、11月と12月にクラスターが発生しました。感染力が強く、瞬く間に広がるような状況でしたが、利用者も職員も重症化することなく収束しています。

＜クラスター発生時の感染状況＞

11月	作業棟にて、利用者6名が感染
12月	生活棟にて、利用者36名、職員9名が感染

(ｲ)コロナを含めた感染症対策として、隔離対応が必要な事態を想定し、男女棟の間に仕切り扉を設置しました。仕切りを作ることで感染拡大を最小限に抑える効果を期待しています。

(ｳ)感染対応に必要な備蓄(防護服や消毒液等)は定期的にチェックし、緊急時に備えています。

イ　災害対策

(ｱ)係を中心に防災計画の見直しを行い、避難訓練の計画立案や避難経路の確認を行いました。

(ｲ)避難訓練は、地震、火災、水害を想定した内容で3回実施しました。水害訓練は避難場所を自立棟2階に設定し、避難後に30分以上待機するという内容で行いましたが、混乱もなく落ち着いて実施することができています。

(ｳ)備蓄品については、食材は栄養士、日用品類は支援員がそれぞれ担当し、確認を行っています。非常用器具類の使用確認は一部の職員に留まってしまい全体周知ができていないため、訓練の中に組み込んで進めていきます。

(ｴ)夜間緊急時における各棟の伝達方法は、グループラインを活用して行っていますが、個人のスマホを使用するため、改善策を引き続き検討します。

（４）事業運営

ア　生活環境改善のための主な各所修繕

(ｱ)自立棟及び男性棟トイレの改修を行いました。床材には臭いを吸収する素材を使用し、清掃も行いやすくなったことで臭いが改善しました。

(ｲ)自立棟の洗面台の改修は、洗面所下の水道管の移動が難しいため実施しませんでした。改善に向けて引き続き検討します。

(ｳ)自立棟2階の廊下の清掃を専門業者に依頼して行いました。汚れは取れましたが、コロナの感染対策で毎日消毒薬を使用しているため、床面の傷みが目立ってきています。

(ｴ)グラウンド整備として、段差解消と陥没箇所の修繕を行いました。安全面が改善したので、中庭に人工芝を敷き、テーブルや椅子を整備してテラスとして活用しています。

＜その他の主な修繕箇所＞

男性棟	居室エアコン熱交換器交換、居室・ディルームのLED設置、便器交換など
女性棟	居室エアコン圧縮機交換、特殊浴槽修繕、給湯器交換など
自立棟	圧送ポンプ交換、消火栓バルブ交換、屋上バルブ交換など

イ　旧棟建て替えに向けた取り組み

(ｱ)「施設整備プロジェクト」として現場職員と意見交換を行いました。利用者の将来像を踏まえ、年齢や障害特性に合った生活環境を模索しています。

(ｲ)設計士との打ち合わせを綿密に行いながら、旧棟建て替えに向けた準備を進めています。今年度は許認可の状況や法令上の問題など、現状確認を中心に作業を進めました。

＜就労支援課＞

１　重点実施事項

（１）就労移行支援

就労支援力の向上

・障害者職業センター主催のアセスメント研修に参加し、アセスメントの視点や相談時のポイントなどを学びました。研修で得た内容を参考にして評価シートなどを見直し、支援力向上に向けて取り組んでいます。

・毎月、月末に就労支援センターとの情報交換を行い、利用者の状況や求人情報を確認し合いました。センターと現場がチームとなって役割分担することで、企業との調整や家族への情報伝達もスムーズに行うことができ、結果、4名の方の就職につながっています。

（２）就労継続支援Ｂ型

平均工賃 15,000 円以上

・月平均の作業工賃は 11,600 円程度となり、目標額には届きませんでした。法人内事業所からの紹介と独自の開拓により、新たに 3 社から新規作業を導入しましたが、コロナの影響で受託状況が安定せず、工賃アップに繋げることはできませんでした。

・受託作業の種類ごとに作業工程を一つずつ確認し、見直しました。利用者の適性や能力に応じた工夫をし、一人一人の効率アップに繋げました。

・毎月、作業種ごとの工賃一覧を作成して会議を行いました。工賃の推移を視覚化したことで工賃に対する意識が向上しました。

・けいわ味噌の製造については管理簿を活用して在庫管理を徹底しました。久喜市学校給食センターへの移行に伴い、数量の目途がたっていなかったため先方と協議を行い、年間 2,000 ㎏を目安とすることで合意しています。

２　具体的取組み

（１）利用者支援

ア　就労移行支援

(ｱ)月に 1 回、ビジネスマナーを身につけるために座学を行ないましたが、コロナの影響を受け、秋以降は中止にしました。

(ｲ)職場への定着を図るため、就職後に月 1 回程度、電話相談や直接話しを聞く機会を設けて働きかけを行いました。相談支援センターの職員と密に情報交換をしながら、フォロー体制を強化して取り組みました。

イ　就労継続支援Ｂ型

(ｱ)それぞれに合わせた作業種の提供やグループ分けを行いました。複数の作業種がある時は利用者から希望を聞き取り、できるだけ希望に沿った仕事が行えるよう配慮しました。

(ｲ)高齢の利用者には、個々の状態に合わせた作業内容を提供できるよう努めました。筋力低下がみられる利用者には、散歩の時間を設けるなど、筋力維持のための支援も行っています。

(ｳ)グループホームや相談支援センターなど、他事業所との話し合いの場は、コロナの影響で定期的には開けませんでしたが、チームで支援することを意識し、こまめに連絡を取り合うことで対応しました。

ウ　虐待防止対策

(ｱ)虐待防止研修は、就労支援課の内部研修としてグレーゾーンやケース検討会を実施したほか、法人全体として行った動画視聴研修を全員が受けまし

た。強度行動障害についての内部研修は実施できませんでした。
(ｲ)毎日の夕会の場で支援を振り返りました。その日のうちに情報を共有して統一した対応を検討するなど、スムーズな支援に繋げることができました。

（２）働きやすい職場づくり

ア 業務改善

日常業務の分掌表作成までには至りませんでしたが、行事など時期的に業務が重なる場合などは、お互いがフォローし合う体制を作って対応しました。

イ ストレスの軽減

3～4ヶ月ごとに上司による職員面談を行いました。日々の業務を振り返る他、相談ごとなどを聞き取り、業務改善や利用者支援へのアドバイスをしました。

（３）人材育成

ア 主な参加研修

内部	要約力・伝える力、虐待防止、身体拘束防止、安全運転、就労支援課におけるグレーゾーンについて、風水害、リスクマネジメント
外部	SDGsによる福祉の取り組み～就労支援～、労務管理、BCP作成、アセスメント、人材育成、中堅職員、工賃向上、虐待防止・権利擁護、個人情報漏えい、リスクマネジメント、埼玉県災害派遣福祉チームスキルアップ

イ 他事業所見学

さいたま市の事業団が運営する日進職業センター（移行、継続B）へ見学に行き、アセスメントの取り方や支援のポイントなどを学びました。

（４）リスク管理

ア 災害対策

(ｱ)火災や地震、水害を想定した訓練の他、風水害の内部研修を実施しました。
(ｲ)大規模地震を想定し、連絡や帰宅の方法、引き渡しの仕方などを見直しましたが、家庭の状況により連絡が難しいケースもあり、課題が残りました。

イ 安全管理

(ｱ)味噌製造に係るボイラーや回転窯の設備点検と、味噌加工室点検表による安全衛生点検を毎日実施しました。
(ｲ)安全運転に関連するDVDによる内部研修や公用車の定期点検（月1回）を実施しました。

ウ 感染症防止対策

(ｱ)検温や体調チェック、消毒や換気など、基本的な感染症防止対策は、昨年度に引き続き行いました。
(ｲ)8月に利用者1名、12月に利用者2名、職員3名、1月に利用者1名がコロナに感染しましたが、早期対応を行った結果、いずれも全体に広がることはありませんでした。

（５）地域交流

ア 地域との交流

久喜市民まつりや人権のつどい、企業での味噌販売への参加や見沼たんぼクラブ主催の収穫イベントに参加しました。

イ 地域貢献

地区を回ってのゴミ拾いや、施設周辺の花壇の手入れ、除草作業など、近隣への美化活動を定期的に行いました。